

2012 年 4 月 17 日

東 海 支 部 だ よ り

全国厚板シェアリング工業組合
東 海 支 部

2012 年度支部総会及び懇親会を開催

2012 年 4 月 13 日（金）東海支部の 2012 年度総会及び懇親会を宮城蔵王ロイヤルホテルに於いて開催した。

1. 総 会

事務局より、開会を宣言 総会成立の確認報告を行い

（組合員数 33社2事業所の内 19社0事業所の出席と一任会社11社 出席率 85.71%）
15:30 定刻 30 分前に開催された。

冒頭、支部長挨拶の前に、既に新聞発表された三和鐵鋼の社長退任と尼崎にある神鋼建材への社長就任の件と 6 月まで支部長を継続して、その責務を全う後臨時総会(紙上)を開催して、新しい支部長を選任して戴く旨、報告された。また、この場には次期支部長候補として、4 月に三和鐵鋼に顧問として赴任している高木唯夫^{ただお}の紹介と本人が挨拶をされた。引き続き、総会に臨席されている高木理事長が挨拶された。

林支部長挨拶

【産業新聞より】2012 年 4 月 16 日

『昨年 3 月の震災で被災した東北支援として、総会の蔵王開催を決定した経緯を説明した上で「建材主体のシェアリング業では、稼働率は 50-60%に低減しているが、日本経済は緩やかに回復、震災復興や名古屋駅周辺のビル高層化、リニア新幹線のトンネル工事を控え、需要増大も期待でき、採算を改善するチャンスと確信している」と述べ、経営体質の強化を強調した。』

【鉄鋼新聞より】2012 年 4 月 17 日

『景気は緩やかな回復基調にあり、年度後半からは震災復興が鉄鋼内需を支えるとの期待もある。また、地場でも名古屋駅周辺の高層ビル建設の本格化など地域需要もようやく底を脱しそうだ。われわれの採算改善の機会到来と確信する。』としつつ『需要量の増減に左右されにくい経営基盤づくりと体質強化を個々社が推し進めていくことが大切。東海支部としてはそれを支援できる種々の活動・取り組みを企画立案・実施していくので引き続き協力をお願いします。』と呼び掛けた。

高木理事長挨拶

【産業新聞より】2012 年 4 月 16 日

『10 月の新日鉄住金発足を指して「今秋以降、鉄の加工分野でも再編・統合が起こる。受給ギャップ解消は再生へのステップとなる。今の量で収益を上げられるかを考え、稼働率 60%でも再生産可能な経営基礎を造るべきだ」と経営基盤強化の必要性を唱えた。』

以 上

支部長挨拶に引き続き、支部規約第 9 条により林支部長が議長となり議案審議に入った。

第 1 号議案 2011 年度事業報告及び会計・監査報告、並びに決算の承認について

2011 年度(2011 年 4 月 1 日～2012 年 3 月 31 日)の事業報告を事務局、会計報告を事務局の堀場、監査の結果について監査幹事の瀧上氏(丸定産業(株)代表取締役)より報告し承認を得た。

第 2 号議案 任期満了に伴う役員改選について

議長より、支部規約第 5 条による役員任期と本年度が改選年度にあたる説明があり、下記の者を役員会の推薦候補とし、『2012 年度東海支部総会開催と役員改選について』の案内に於いて、回答が組合員 35 社中 35 社の『役員(案)に一任する』との集計結果を得た旨の報告があり、議場に諮ったところ全員異議なく承認され、拍手により選任された。

東海支部役員
2012 年度総会(2012/4/13)

(敬称略)

支部役員名	2012年度		備 考
	会 社 名	氏 名	
支 部 長	三 和 鐵 鋼(株)	林 光 雄	本部副理事長
副支部長	熱 金 鋼 業(株)	山 村 熹	本 部 理 事
副支部長	丸 八 鋼 材(株)	佐 野 和 彦	本 部 理 事
幹 事	東海鋼材工業 (株)	岡 勝 彦	本 部 理 事
幹 事	有川シャリング工業(株)	有川 京司郎	
幹 事	鈴 将 鋼 材(株)	鈴 木 康 司	
幹 事	中 部 鋼 板(株)	南 信 年	
幹 事	J F E 鋼 材(株)	柳 瀬 正 司	
会計幹事	鬼 頭 鋼 材(株)	鬼 頭 洋 史	
監査幹事	丸 定 産 業(株)	瀧 上 亮 三	

第 3 号議案 東海青年会 2011 年度事業報告

東海青年会 大鹿会長代理で事務局の堀場が報告した。

第 4 号議案 2012 年度事業計画案について

事務局より、事業計画を説明し原案通りに承認された。

第 5 号議案 2012 年度予算案について

予算案について、会計幹事代理で事務局の堀場より説明し、議長は議場に諮ったところ全員一致で承認可決された。

第 6 号議案 その他

今総会では、特別その他の議案はなく終了した。

以上にて審議事項を全て終了。

連絡事項

続いて、事務局より第37回通常総会(本部)の紹介が行われた。

最後に、議長より無事総会が終了した事に対する御礼を述べ、総会は午後4時30分終了した。

以上

自由時間(2時間)の後、18:30より場所を2階の『屏風』に移し、岩谷東北支部長(仙台シャリング(株)社長)の来賓挨拶の後、山村副支部長(熱金鋼業(株)会長)の音頭で乾杯し懇親会に入った。

パーティは、座敷方式で開始早々コンパニオンのお酌にひと時、現状を忘れたかの様に、笑顔で会話が華が咲き、二次会も1階の『カナリヤ』にて行われ、深夜遅くまで楽しんでいる様子だった。

中締めは、佐野副支部長代理(丸八鋼材(株)取締役)の音頭で、恒例の一本締めを行い懇親会の宴を閉じた。

又、今回も宿泊は参加者一人一室(ツインルーム)を確保し気兼ねなくゆっくりとして戴いた。

懇親ゴルフコンペ

翌日、宮城蔵王カントリークラブに於いて懇親ゴルフコンペ(7:38スタート、理事長および岩谷東北支部長を含め18名参加)が行われた。結果は下記のとおりです。

(記)

	OUT	IN	GROSS	HDCCP	NET	
優勝 大鹿 功雄	48	43	91	19.2	71.8	(大鹿シャ)
準優勝 伊藤 豪誌	44	38	82	8.4	73.6	(丸三剪断)
3位 林 光雄	51	47	98	24.0	74.0	(三和鐵鋼)

以上

被災地見学にあたり

空港から仙台シャリング 殿に観光バスを走らせる車窓より見えたものは、何もない塩をかぶった田畑の真ん中にぼつんと置きざりにされた壊れた大型の船、道路と田畑を仕切るガードレールが飴のように曲がっており、本当に津波の恐ろしさを痛感しました。

また、途中バスを止め参加者全員で黙とうを捧げた^{ゆりあげ}閑上地区の日和山慰霊碑の周辺は、かつて民家や工場が立ち並んで大勢の人たちが生計をたてていたと思われる場所は、土台だけが虚しく残っており、瓦礫が取り去られ見渡す限り何もなくて地平線が見え、遮るものがないため強い風が吹いていました。

一日も早い復興を願わざるを得ませんでした。

(事務局 堀場 記)